

CONTENTS

自作自演187 ..... 杉山貞利・入江 理・尾崎公俊・相原宏康 ..... 2

<対談 第2回> 建築を囲む科学 後編 山崎真理子氏に聞く ..... 4

第2回 建築家は、リージョンを持つ。

「水上ビル」のはじまり ..... 黒野有一郎 ..... 6

JIA東海支部 会員集会 ..... 鈴木祥司・植野 収・奥野美樹・加古 斉・中村 久・森川 礼 ..... 8

JIA愛知発 愛知法人協会 研修見学会 ホクセイ株式会社見学～伊勢神宮を参拝  
..... 吉澤智博 ..... 11

JIA静岡発 建築家講演会 前田圭介氏「ホームを拠点としたインターローカルな活動」  
..... 石川正子 ..... 12

JIA静岡発 建築ウォッチング ROKI研究開発棟+フローリング工場見学会 ..... 大橋康孝 ..... 13

JIA岐阜発 JIAの窓 置塩淳夫氏による講演会 ..... 車戸慎夫 ..... 14

JIA三重発 建築ウォッチング 草津「追分」宿場町周辺散策 ..... 中村 久 ..... 15

▶東北からのメッセージ

3.11からの石巻「ISHINOMAKI2.0」② ..... 西田 司・勝 邦義 ..... 16

「フクシマ」現状レポート 双葉町へのバスの中で ..... 吉元 学 ..... 17

第46回 中部建築賞 入賞・入選・特別賞作品 ..... 18

保存情報 第159回 伊賀焼の郷 長谷園 ..... 山田正博 ..... 20

国指定特別史跡 新居（あらい）関所跡 ..... 三輪邦夫 ..... 20

理事会レポート ..... 鳥居久保 ..... 21

東海支部役員会報告 ..... 加藤幸治 ..... 22

東海とっておきガイド ⑦⑤ 岐阜編 ..... 長尾英樹 ..... 23

地域会だより ..... 23

編集後記 ..... 石橋 剛・市川 司 ..... 24

Intuition XI

執念の崖地ハウス



見た瞬間に、執念を感じる物件。フリーダム・アーキテクチャーの一つと言える増築系建物群。道路横、切り立った南東向きの崖の上下に複数の建物が建っており、梯子を使った渡り廊下が、つないでいる。

崖下、画面から切れている右下の建物が母屋と思われる。その左手前に小さな離れ。その間もタン屋根の小屋でつながっている。この離れの前には水路が流れ、椅子が置かれていて、日向ぼっこには最高の場所だ。

その離れの後ろから、崖上につながる単管足場で作られた屋根付き渡り階段。階段といっても梯子が使われているので、かなり過酷。とはいえ道路から崖上のもう一つの離れにアクセスするにはかなり迂回しなくてはならない。この過酷さをしても優位なショートカットなのだろう。

崖上は離れ2とトイレと作業場がある。もともとあったものを入手してつないでしまったのかは分からない。とにかく、それぞれが独立して建っていることはない。必ず屋根付きの何かでつながっている。ここにこだわりがあるのだろう。

高低差のある敷地に、小さな建物を散りばめ、つなぎ合わせる手法は、ときどき見るものなのだが、個人がここまでつくったとなると畏怖の念すら感じる。春、新緑の季節にはまた違った雰囲気になるはず。

左の写真は解体時に一部だけ残された建物。崖地ハウスが増築ならこちらは減築によって残った形の面白さ。なんでこんなことになってしまったんでしょうね？

横関浩 | STANDS ARCHITECTS





杉山 貞利 (JIA 静岡)

静建企画設計一級建築士事務所 (静岡市葵区相生町18-10 TEL 054-255-4837 054-253-1442)

## この「焦燥感」は何だ

先日、他団体主催の「新国立競技場の建設計画で問われている事」のテーマで芦原太郎、松隈洋の両氏による対談がありました。芦原氏は公共建築物の計画段階における住民の意見反映の方法として、イギリスのCABEの仕組みと専門家の役割について話されました。松隈氏は東京オリンピックの戦前からの歴史と、場所の選定から競技場の計画にかかわった岸田日出刀を挙げ、その思想に景観への影響、環境の保全、エネルギー、予算など今日言われていることが網羅されている。場所選定には陸軍の練兵場も候補に入れ計画を変更させているとして、次のように話されました。当時は軍より圧力があつたと思うが、50年100年後の人々に受け入れられる施設を、という信念がうかがえる。戦争によりオリンピックは返上されたが1964年の東京オリンピックにはその計画が生かされている。新国立競技場の計画には歴史や地域の景観への配慮や、環境との調和が読みとれない。岸田の計画には仮設で建てる案があり、21世紀型オリンピックと言われる先のロンドンオリンピックは、一部の施設を仮設とし、次の利用の際の支障をなくしている。建築三団体では主催機関に要望を申し入れをしていますが聞き入れられません。遅きに失したのか、社会やマスメディアはほとんど関心を示しません。

以下は私見です。当初の案は既存の道路を廃止し周辺の施設まで取り込んだ巨大な敷地を与え、建築基準法や都市計画法の制限を超えたものでした。審査委員に複数の著名な建築家が名を連ねられています。委員長に掲載された出版物や講演は何度も見聞き、見識の深さに感銘を受けていますが、土地の歴史や景観に配慮などの発言はなかったと思います。邪推ですが審査委員就任もやむを得ず引き受けたと勝手に思っています。平成の岸田日出刀はいないのか、しばし焦燥感にかられました。50年後、UFO (コンペ当選案) が飛び立ち、周辺が廃墟とならないように祈ります。



入江 理 (JIA 愛知)

入江設計室 (名古屋市昭和区五軒家町24-1 TEL 052-834-6400 FAX 052-834-6410)

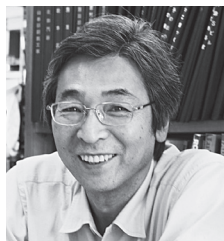
## 一人の時間に考えたこと

正月明けから、単身生活が続いている。といっても女房に逃げられたわけではない。家内は娘のお産で東京に行っている。まだ生まれないので当然一人が続くだろう。一人といっても家にはかわいい1匹の子犬がいる。犬種はポメラニアンである。これが案外存在が大きく、世話が焼ける。炊事、洗濯、犬の世話と毎日が忙しい。とはいっても夜は長い。毎日ビデオ (古いなー) で映画を観ている。



先日、昭和37年製作、小津安二郎監督の「秋刀魚の味」を観た。小津の作品は、「晩春」「東京物語」と好きな作品が多い。「秋刀魚の味」はもう3度ぐらい観ている。若いころ観たときはあまり思わなかったが、時間の流れが実にゆっくりしていると感じた。そしてそれが妙にしっくりとして、心地よかった。昭和30年代はこんな流れだったのかと懐かしい気がした。

現代は、コンピューター、スマートフォン、リニアモーターカーなど、いかにスピーディーに事を運ぶかが重要な時代になった。今の若い人たちにはそれが当たり前なのだろうが、なぜ、そんなに急ぐ必要があるのだろう。そのほうが人は幸せになれるのだろうか？ どんどん便利な世の中になっていく中で、何か乾いた社会を感じてしまうのは私だけだろうか？



## 尾崎 公俊 (JIA 愛知)

設計工房 蒼生舎 (名古屋市千種区高見1-26-4タカミ光ビル205号 TEL 052-761-7091 FAX 052-761-9384)

### キノコ採り

秋にはキノコ採りに出かける。かれこれ10年は続いているだろうか。

私の郷里は長野県の南部、木曾谷の山村である。子どもの頃は、秋と言えば山でキノコ採りであった。

名古屋で暮らすようになってからはキノコのことは頭から消えてしまっていた。が、あるとき、思い付きで翠松園(守山区)の林に入ったところ、クリ茸とアミ茸(食用のキノコ)を見つけた。それ以降、市内のいろんな場所を探索したが、どうもキノコは少ない。植生が違うのであろうか。

そんなとき、同じ長野県の伊那谷に有料で入れる山があることを聞き付け、出かけるようになった。県外からもキノコ好きが集まってくる。拠点の小屋には山を管理している地元のおじさんが陣取り、キノコの見分けに自信のない人たちが教えを乞う。大概是食用の雑キノコであるが、マツタケやロウジ(おいしいが希少なキノコ)が採れたときは大騒ぎである。秋が深まるにつれて採れるキノコも変わり、10種類ほどのキノコ(食用)を収穫することができる。

腰ビクと熊避けの鈴を付けて拠点周辺の山筋を尾根伝いに4~5時間歩き回る。足場の悪い斜面を歩くこともあって60歳を過ぎた私には結構ハードな運動である。拠点に戻り、収穫したキノコを同行の友人たちと分け合い、心地よい疲労感の中、名古屋への帰途につく秋の一日。



晩秋のキノコ、クリタケ。栗の木の古株に生える。汁物にすると汁が出ておいしい



## 相原 宏康 (JIA 三重)

Hiro設計室(亀山市北町8-28-6 TEL/FAX 0595-96-8175)

### ホームシアター

先日「趣味って何ですか?」と聞かれた。少し考えたが、ゴルフやスポーツなどの趣味と言えるようなものが思いつかない私…。そのときは「映画はよく見に行きます」と答えた。趣味といえるのかは分からないが、興味あることではあった。

8年前に自宅を建てたときには、必ずつくると思いつけたホームシアターを設置した。専用室ではなくリビングをホームシアター化するタイプである。自分が使用中はリビングを独占してしまうため、ダイニングキッチンでもくつろぐことができるように少し広くリビング的な雰囲気を持たせるように計画した。実際、映画を観るときは自分1人よりも家族で観ることの方が多く、リビングが家族団欒の場としての機能をしっかり果たす結果となっている。今の時代は映画鑑賞だけではなく、みんな集まってのスポーツ観戦、家庭用ゲームも等身大で楽しめるなど、いろいろな目的に使えると私は考えている。

8年の間に映像は格段に良くなりソフト媒体はDVDからブルーレイディスクに、映像配信もアナログからデジタルに変わった。わが家の機器も順番に買い換えてはいるのだが、メインのプロジェクターは買い換えるタイミングが難しく初期のままなのが取り残されたようで少し寂しく感じている。ホームシアターの影響なのか、近年では映画館に足を運ぶことも増えて年間25本程度観ている。時間が合えば、1日に3本観ることもある。今は私にとって仕事を忘れてリフレッシュできる時間のひとつとなっている。

最後に、家庭用液晶テレビのサイズも年々大きくなっている。どこまで大きくなるのかは今後の住宅プランにも関係してくる問題ではある。



この連載は、直接建築をテーマとしていない研究者と建築の研究者が「建築」をキーワードにして対話でつなげるものです。前編（2014年12月号）は、木は古材を含め、もっと使える、今の住宅の工法にも課題があるというお話でした。森の危機的状況はもう猶予がないほど差し迫っています。建築界がすぐさま取り組めることは何か、具体的な方法について語っていただきました。聞き手は生田京子氏（名城大学准教授）です。吉元 学 | ワーク・キューブ



**生田** 山崎先生は、古材を性能評価する基準をつくっていらっしゃるのでしょうか。

**山崎** 古材の研究は、リユースマーケットができてほしいと思ってやりはじめたのです。文化財級なものも残されるけど、改修可能なレベルのストックをもっと良質化していくべきでしょう。解体された材料は、チップ化されて大体バイオマスエネルギーになるのですが、もう1回使えると思われる材もあるので。それらをマーケットで扱えたらと思うし、そういう材料を生かす建築、技術がもっと発達していいかなと思うのです。古材もグレーディングシステムがちゃんとあって、建築士さんが基準を確認して使う、ということになっていくといいなと。過剰なまでに安全を見るのではなく正当な評価が必要で、古材もデータベースをつくって更新しながら基準強度を決めていく、ということではないかと思えます。科学的な裏付けができ、設計もしやすくなるはずですよ。

一定の住環境が日本人全員に用意できたというのがこれまでの段階で、これからは良質なストックをもっと残そう、環境をもっと良くしようという段階でリノベーション分野は発達してくると思います。建物が使われている段階でグレーディングができれば、建築家は次の計画が明確な形で立てられますね。非破壊検査は、大壁だと壁をはがさないと無理なのですが、中古マーケットができれば、これからの建物は真壁で建てましょうということにつながる。生物劣化も、半年か1年の周期でチェックしておいたほうがいいので、材はやはり見え

ていたほうがいい。中古市場が発展すれば工法も変わってくるのではと思います。

**生田** 古民家は大抵、材が表して使われています。まず古民家再生をとっかかりにして、それを普段の設計過程に生かすことが普及していくと、工法もレベルアップしていくのかなと思います。

#### 自由な発想で木を使おう

**山崎** 建築学会を見ると分かるのですが、木材って、木構造しかないんですね。例えば環境工学とかデザインの分野で木材というセクションがあつていいと思うのですが、全然ないのです。そもそも何のために木を使おうという流れになったのかというと、森を健康な状態にしなきゃという理屈があつたはずなんです。建築の人たちはたくさん「宝物」がある森をどうしたら生かせるかと全体をとらえるべきと思うのですが、今はコンクリートや鉄でつくっているものを単に木に交換しようという発想になってしまっている。それで住宅でE100とかE110の材が求められると、森の中で使えるものなんてごく一部になってしまいます。だからもっとインテリア、内装、造

作、外構など木の使い道を多く自由に発想してほしい。でないと森は全然元気にならないし、森にお金が返らない。バイオマスエネルギーに使えばいいといっても、それと建築材料に使うのとでは倍ほど値段が違うわけです。

しかし住宅もこれから伸び率が小さくなりますから、都心部ではマンションに可能性があるでしょうか。住人が入れ替わるときに内装はリノベーションされるので、そこに木が投入されていくのは自然な流れ、そういうイメージを建築の人たちに持ってもらえるといいなと思います。新築マンションなら、戸数の3割は無垢のフローリング材を敷こうとかいうのもいい。フローリング材も例えば四角形のパーツをつかってモザイクにするなど多様なデザインができます。スギだと色味がかなり変わり面白い。建築学会の中でそういう研究や活動がもっとあつていいと思うのですが。ヨーロッパではいろいろな使い方が紹介されている写真集があつたり、木を使うデザイナーがいたりしますが、日本にはそういう人たちはいないですね。情操教育、木育という言葉がありますが、子どもたちにもっと木の空間を提供できる可能性もあると思



丸太での性能評価



RC集合住宅での木材の内装利用

います。

**吉元** 僕らはどうしても床を板でとか、骨組みを木でとか、柱や梁を表して…となるのですが、建具屋さんにはまた違うので、欄間や格子などインテリアという感覚で広がっていきと変わっていくような気がします。

**生田** 子どもからお年寄りまで木の空間に対するニーズは高いと思うのですが、「木だと和風」というだけではなくて、モダンの中でも使われると良いのでしょうか。

**山崎** そういう選択肢を市民は知らないですよ。アイデアも提示されないし、カタログもない。森側としてはやってほしい部分です。建築家が主導権を持てば、工事のほうも工夫して技術が上がる。それには建築家が樹種のことをよく知っていないといけません。これはブナならできるけどヒノキじゃ無理とか。そうした機運が芽生えてくるといいですね。構造ですごく頑張るよりも、インテリアの部分で使うほうが楽し素直。森で使える木も増えます。

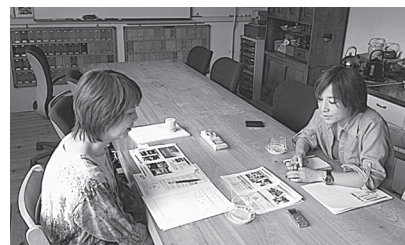
森の現状に猶予はない

**山崎** 木材を使った建築物というときに、ほかの材料に比べて随分遅れている状況がありますね。スカイツリーなんて大がかりな実験をしてまでも実現するわけでしょう。木材の世界でもそういうチャレンジがあつていいと思うのに、現行法の中で粛々とおとなしくやっている。今の法律はあくまで今の知見での安全性の担保であり、それを変えていくことができるのは建築の世界の人たちです。

**吉元** 「木は燃えるから壁に使ってはいけない」となっているとすると、例えば格子を付けて防火実験をやった方がいて、これが燃えにくいのです。格子は防火設備になるのです。そういう知識を増やして、いろいろな角度から努力してみる必要があるかもしれないですね。

**山崎** 学会などで知識や実験結果を共有すれば、変わっていくと思います。逆に、ここで困ったというのが建築家のほうから出てきてもいい。そうしたところに潜在的なポテンシャルがあるのではないのでしょうか。

今、森が危機的な状況といわれているのは、間伐されずに木が密集し、森自体の機能が落ちて災害に弱くなっているからです。健全な森であれば、80年生の森も50年生も森ももっと若い森と同じぐらいの面積で分布していて、建築界にとっても常に一定の材が出てくるし、次世代にも同じ森を残せるのですが、今は新植ゼロの森もあり



木が多用された研究室での対談。右が山崎先生

やまさき・まりこ | 1992年名古屋大学農学部林産学科入学、2001年同大学大学院生命農学研究所にて博士（農学）取得、2007年名古屋工業大学大学院工学研究科にて博士（工学）取得、木材をはじめとする生物材料について、材料強度学の観点から研究活動を行う。2009年に現職に就き、森林資源の持続性向上のために木材利用がどうあるべきかを問い続けている

り、私たちの孫の世代には使える木はありません、という事態になっているのです。森の立場に立つと本当に猶予はないのです。

今後年間どれだけ主伐したらいいかというのを計算すると、愛知、岐阜、三重の3県で440万立米です。間伐材をプラスすると600万立米ぐらいの木を毎年出さないといけません。今すぐやり始めて100年後に健全な森になるという計算です。家づくりを100%地域材で賄い、余った材の用途開発もしないといけません。バイオマスに回してもそればかりだと、森林がCO<sub>2</sub>を吸収するより排出のほうが量が多くなってしまい、バランスがとれません。だから吸収したCO<sub>2</sub>をストックした状態の住宅である期間がすごく大事。そういう観点を持っていたらいいと思います。建築の役割はとても大きいのです。

**生田・吉元** ショッキングな話でもあり、勉強になりました。ありがとうございました。

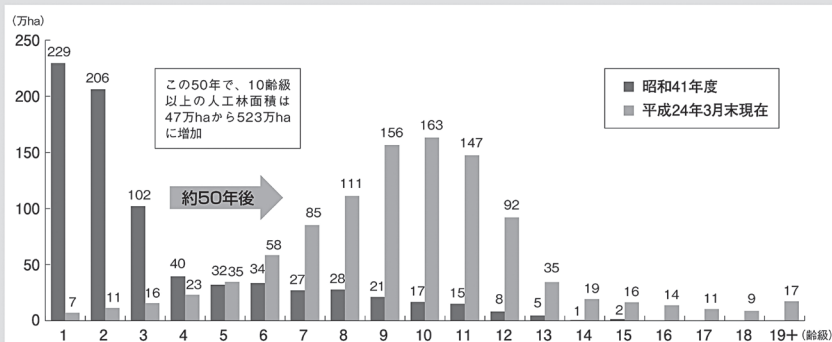
■山崎先生に、JIA会員のための参考文献を挙げていただきました。

木材工業2012年1月号～10月号：内外情報「都市の木質化プロジェクト」(連載10回)一渡邊誠一郎、中塚武、王智弘編：臨床環境学、名古屋大学出版会、2014



聞き手  
生田京子 | 名城大学准教授

資料 I - 29 人工林の齢級構成(昭和41(1966)年と平成24(2012)年の比較)



注：齢級とは、森林の林齢を5年の幅でくくった単位。人工林は、苗木を植栽した年を1年生とし、1～5年生を「1齢級」、6～10年生を「2齢級」と数える。  
資料：林野庁「森林資源の現況」(平成24(2012)年3月31日現在)、林野庁「日本の森林資源」(昭和43(1968)年3月)

平成25年度森林林業白書より

# 「水上ビル」のはじまり

黒野有一郎 | 一級建築士事務所 建築クロノ

建築家は、地域へどのようにアプローチして、地域とどのようにかかわっていけるのか？

地方都市・豊橋市(愛知県)の「まちなか」における取り組みを10年間の活動を交えて紹介する。

今回は、最初の「水上ビル」である「大豊(だいほう)ビル」の成り立ちについて触れたいと思う。

## 「だいほう」前夜

「だいほう」には、「水上ビル」以前に15年ほどの前史がある。歴史は、戦後の“闇市”にさかのぼる。昭和20年(1945年)、終戦間際の6月19日の夜半から翌20日の未明にかけての「豊橋空襲」により、市中心部はほとんど焼け野原となった。終戦を迎え、豊橋においても駅前近の通りには仮店舗や露天市場を中心とした「闇市」が出現する。

全国の都道府県は、闇価格の高騰や市場の混乱など、無法地帯化を憂慮し、条例採択によって、闇市の取り締まりや組織化を推進することになる。1年後の昭和21年暮れ



には、「豊橋露天商組合」が成立し、秩序の回復や駅前的美観整備のために、闇市を駅前から離れた場所へと移転させる。移転は順調に進み、「青空市場」「明朗市場」など名称を一新したが、実態に大きな変化はなかったようである。

その後、豊橋の戦後復興も軌道に乗り、昭和23年(1948年)「豊橋市民市場協同組合」が創立、その初代理事長となったのが、山本岩次郎氏である。この人物こそが、「だいほう」のはじまりをつくるキーパーソンである。

## 「だいほう」のはじまり

ここに重要な2つの記事がある。ひとつは、(株)実業之日本社発行の「オール生活」という雑誌(8月号)の「共同店舗ビル街・豊橋だいほうはなぜ成功したか」という特集記事、もうひとつは、東愛知新聞のコラム「人がいて話題がある」渡辺登喜雄編集局長(当時)執筆のだいほう商店街理事長・山本岩次郎さんへのインタビュー記事である。

これらは、山本岩次郎氏の子息にして、昨年まで理事長であった山本一成氏のお宅から発見されたもので、「大豊ビル」出生秘話とも言える事柄が綴られており、その創立当時を知るのに大変参考になった。



記事によると、「豊橋市民市場協同組合」の創立に尽力した岩次郎氏は、「キッチンと自分の土地と店を手に入れなければいけない」と、組合に参加した150名の組合員に200円の日掛貯金を課した。血判について団結を誓った仲間も一人、また一人と脱落して、昭和24年(1949年)には半数近くなったが、残った同志と協力し、銀行借入れを加算した2千万円余で、駅前通りの小学校跡地700坪を購入する。

翌昭和25年、「大きな豊橋をめざして」という意味を込めて、「大豊」と命名された58店舗からなる「大豊商店街」「だいほうマーケット」が誕生する。

## 「大豊ビル」の誕生

「だいほうマーケット」の創立から5年後の昭和31年(1956年)、マーケットに隣接する旧「狭間(はざま)小学校」から残された市営プールのスタンド完工式でのエピソードが記事にある。

豊橋の実業家である神野三郎氏との会話——、「山本さん、早く立派なビルを建てるんだな。あんたが建てようと腰を決めれば、わしは、あんたのことだったら、どんな応援でもするぜ」と激励されたと往時の記憶が綴られている。戦後10年余、徐々に市街化も進



組合員の団結を導いた山本岩次郎氏(「オール生活」8月号(1965年、(株)実業之日本社)の記事より)

左|「だいほうマーケット」の様子(昭和20年代) 右|駅前大通りから見た「だいほうマーケット」(昭和30年代頃)



「だいほうビル御案内」 商店街紹介のリーフレット



開業した大豊ビル。右の写真からは用水に沿ってカーブしている姿が分かる。道路は未舗装だが、マイカーでの買い物ができるのも魅力だった。アドバレン広告が懐かしい



み、駅前大通りという一等地を占める木造雑居のマーケットは、まちづくりにおいて、防災（火災）や美観（景観）といった観点から問題視されるようになっていた。昭和30年代中頃になると、「防災建築街区造成法」の適用で、マーケット移転問題は具体化するが、住民の反対や、行政の意見がまとまらず、一時は立ち消えになる。それでも、昭和38年（1963年）、河合陸郎豊橋市長（当時）の市の躍進への強い祈念や、議会、商工会などの後押しと、「なんといっても山本さんの人徳ですよ」との当時の商工会頭の言葉にあるように、岩次郎氏の統率力と大豊の団結力は、紆余曲折を経ながらも、移転具体化へと進む力となっていく。

駅前の「だいほうマーケット」の土地の売却については、当時、豊橋への進出を望む名古屋鉄道が名乗りをあげ、2億4千万円でこれを譲渡、積立てによる4千万円の自己資金と銀行からの借入融資5千万円を合わせて、3億3千万円の総工費をもって、いよいよ「大豊ビル」の建設に向かうことになった。跡地には、昭和43年（1968年）に名鉄により「名豊（めいほう）ビル」という百貨店が建設されることになる。

一方、「だいほう」の代替の土地があるかという、戦後20年を経た市街地には、すでに十分な代替地がない。そこで、市内を流れる「牟呂（むろ）用水」の水路上に建てるという苦肉の策に至るわけである。「牟呂用水」というのは、三河湾の干拓農地（新田）への農業用水である。春から秋頃まで

通水して、冬場には水がない。新しくできた川というので、「新川」と呼ばれて、お年寄りの昔話では、「泳いだ」とか「魚を捕った」と聞く。

しかしながら、公共的な水路用地上のビル建設とは前代未聞のこと。「用水路上使用許可には市当局の積極的な尽力があった」とあるが、県知事許可や水利権をもつ機関との折衝は、相当な苦難であったことは想像に難くない。不動産の権利関係や税制上の措置など、ほとんどが「口約束」で、およそ文書に残された形跡もなく、さぞかし「超法規的な」ことが執り行われたに違いないが、今となっては、当時の契約状況の詳細を知るモノも少ない。

こうして、昭和39年（1964年）の1月17日に着工、12月10日には、新生「大豊商店街」として、開店大セールを敢行したとある。その日から50年を迎えた昨年（2014年）、僕はこの「大豊商店街（大豊協同組合）」の理事長に就くことになった。任期2年。晴れて、12月10日の50歳の誕生の日に、大豊ビルの組合事務所の屋上に守護神として、初代理事長・山本岩次郎氏によって祀られた「報徳二宮神社・大豊分社」において、「誕生祭」を行うことができたことは、先達のご苦労に報いる意味で、嬉しい出来事となった。

とはいえ、半世紀を経たまちなかの商店街の実情は厳しい。ただ、この不思議な成り立ちの“特異な”また“魅力的な”建築は、ますます多くの人の関心を集めている。「水上ビル」で生まれ育ったモノとして、建築家と



大豊ビル屋上にある報徳二宮神社・大豊分社（写真提供：大豊協同組合）

して、また商店街の理事長として、この建築がどのように活かせるか、またいずれ訪れる「おわり」のときをどのように迎えるべきかを考え始めている。

今回は、2000年頃、豊橋まちなかの低迷期に、「水上ビル」を“まちの背骨”ととらえ、「se bone（セボネ）」というアートイベントを企画した若モノたちについてご紹介したいと思う。

くろの・ゆういちろう | 1967年、愛知県豊橋市生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。1993年より野沢正光建築工房。「いわむらかずお絵本の丘美術館」「長池ネイチャーセンター」などを担当。2003年、同事務所を退所し豊橋へ帰郷。2004年、一級建築士事務所「建築クロノ」を設立。2014年より豊橋技術科学大学建築・都市システム学系非常勤講師。現在、「大豊協同組合」代表理事、アートイベント「se bone」実行委員長、駅前デザイン会議常務理事・事務局などを務める



◎次の掲載は4月号です

12月16日開催

## JIA 東海支部 会員集会

建築家資格制度について考える  
「JIA 正会員」は全員「登録建築家」に

### 登録建築家にかかわる

#### 諸問題の解決も必要

12月16日(火)16時から18時まで、愛知芸術文化センター(名古屋市東区)12階アートスペースE・F室でJIA東海支部会員集会が開催され、悪天候にもかかわらず42名が参加した。うち34名が登録建築家であった。ベテラン会員が多い中、若い会員の出席もあったことは意義深い。集会は、本部職能・資格制度委員会、本部建築家資格制度委員会の両委員長を務める大澤秀雄氏の「正会員全員が登録建築家になる」ことのテーマ説明から始まり、流暢で明快な解説に参加者は聞き入っていた。その後、質疑応答および意見交換がおおよそ50分ほどあり、本部建築家資格制度委員植野收氏からの集会討論のまとめの発言があり、閉会となった。

今回の議案は、芦原太郎会長の「正会員ルート」発言に伴いUIAアコード(基準)に適合したJIAにするため、会員全員を登録建築家にしようというものである。JIA会員要件にUIAアコードの欠如部分があることや登録建築家制度の不整備があることなどで公益社団法人としてのJIAのあり方が問われることとなり、会員の意見を集めようという主旨で各支部において会員集会を開催することとなった。しかし会員減少につながることや登録建築家登録費用が会費に転嫁されること、継続的教育訓練(CPD)が正会員に義務化されること、登録建築家の実績認定の廃止、登録建築家に「なれない」「ならない」正会員の在り様など諸問題も発生し、それらを解決していかなければならない。

集会事前にメール配信した資料と当日資料を合わせて大量に配布し、集会当日にはアンケートを行った。その回答が27人からあり、意見欄には多くの記入があった(アンケート結果は次号以降、掲載予定である)。集まった会員の意識と関心度の高さがうかがえるとともに、積極的な意見が多く見られ、当支部集会意見としては前向きと判断できる内容であった。

今、各地で会員集会が開催進行中であり、全国行脚されている大澤氏に感謝する次第である。

鈴木祥司 | アトリエ祥建築設計(愛知)  
東海支部登録建築家資格制度委員会委員長



担保不足を是正し、

#### 次のステップへ

「JIA正会員が全員登録建築家になる」ことについての議論は、一昨年6月、芦原太郎会長から「正会員ルート」の方針が提起されたことから始まった。

長く資格制度委員会にかかわってきた私は、JIAがつくった資格制度にもかかわらず、会員の半数も登録建築家になっていない現状に忸怩たる思いを持っていたので、正会員を全員登録建築家にする方針に異論はなかった。

ただ、昨年9月の東海支部講演会での会長の「UIAアコードに照らすとJIA会員資格と建築家資格制度のいずれにも不十分な点がある」という説明には驚かされたが、「二つを足し合わせれば十分な建築家になれる」という論法には、正直それではまずいだろうと思った。

会員資格にもかかわる重要な問題であることから、それまで在京委員中心の職能・資格制度委員会で行なわれてきた議論を、現在は、建築家資格制度委員会との合同委員会として毎月開催して行うとともに、全国で会員集会を開き、多くの会員の意見を聞くことに努めているところである。

公益社団法人のJIA会員資格と将来の国家資格を目指す建築家資格とは全く別物であることは論を待たないが、UIAの日本支部であるJIAの会員資格およびUIAアコードに準拠した国家資格を目指す建築家資格に、UIAアコードに準拠していない部分があることは、何をあいても是正すべきことである。

今回、合同委員会の安達委員がUIAアコード最新版の英語と仏語の原文を比較・精査しながら翻訳し、JIA会員規程と建築家資格制度規則・細則と照合した結果、UIAアコードのプロフェッショナルリズムの4原則に照らして、JIA正会員資格の専門能力(Expertise)の担保不足、建築家資格制度の自律性(Autonomy)、献身性(Commitment)、責任(Accountability)の担保不足が明らかになった。この両方を是正するべく、合同委員会において鋭意作業を行っているところである。

以上を整えた上で、JIA正会員が全員登録建築家になり、高度な専門技術と芸術的感性に基づいて建築を創造する活動を進めると同時に、国際的にも通用する建築家資格制度の本格的試行と法制化を見据えた次のステップに向けた活動を展望していかなければならない。

植野 收 | 石本建築事務所(愛知)  
本部建築家資格制度委員







説明する大澤秀雄氏

## 自らの問題として

### 積極的に考え話し合おう

会員集会は、参加者が50名に満たないほど出席の少ないものでした。会員向けに資料などが提出された時間も短く、内容が行き渡っていないところもあると思いますが、会員規定の重要な問題だけに寂しい集会でした。

“正会員が全員登録建築家になる”にピンと来るでしょうか？

これはわれわれが新しい国家資格を獲得するための布石なのだそうです。JIAは士会とともに獲得を目指していましたが、連携の先行き不安のためにJIA独自でも獲得できるように準備しておく。その手立てが“正会員が全員登録建築家になる”ことでした。この理屈は、UIAアコードの基準を満たすことで新資格に備えること、さらに（今さらながら）正会員と登録建築家の2つの認定がないとUIAアコードを満足できない、だから正会員が登録建築家になって皆で準備しましょうということでした。

では、われわれはどんな建築家像を望んでいるのでしょうか？どんな国家資格を獲得したいのでしょうか？ 今回の提案にはそれは明確にされていません。また、獲得における戦略も不明です。これではどちらに向いていけば良いのか分かりません。価値観が変わり建築の手法や機能も変化しています。当然求められる建築家像も変わってきているでしょう。目指す姿を共有できなければ、足並みも揃えられないと思います。

これは提案側だけに頼るべきことではなく、自らの問題として積極的に考えて話し合うべき事項です。すでに建築士制度は60年もの時間が経ち、その中で新しい国家資格を獲得することは並々ならぬことです。われわれが改めて意志を共有し自らの倫理を確立する。まずは身だしなみを整えるところから始めるべきだと思います。



奥野美樹 | 奥野建築事務所 (三重)



加古 齊 | 加古建築事務所 (愛知)

## 会員個人が

### UIAアコード4原則に合致すべき

この集会は「JIA正会員」が全員「登録建築家」になることを目指しての準備として各地域で行われる集会ということで、私はその動向をほとんど知らない一般会員の一人として参加しました。まず、本部の職能・資格制度委員会、建築家資格制度委員会の両委員長をされている大澤秀男氏より概要の説明がありました。UIAの基準に現在のJIAの基準では適合していない、登録建築家の基準でも適合してなく、その両方の基準を足すと適合することでした。

UIAアコードの4原則、1. 専門能力、2. 自律性、3. 献身性 4. 責任にそれぞれの規約が適合しているか○△の資料で解説されましたが、私は「登録建築家」の制度は世界レベルのUIA基準に合致しているものと今まで思っていたのですが、違うのだと初めて知りました。それ以前に、JIAはUIAの一員であって当然UIAの規約に合致していて、日本ではJIAのみが唯一の建築家の団体であると今でも思っていますが、少し不安を感じました（そういえば、UIA東京大会はJIAの単独で開催はされていない）。現状がこの状態であるのならば、合致する団体に前進することは賛成です。

しかし、会は個人の集団で成り立っていて、規約のみで成り立っているわけではありません。会員個人がUIAアコードの4原則、1. 専門能力、2. 自律性、3. 献身性 4. 責任に合致できて初めて世間に誇れる団体になると私は思います。

当然、CPDをはじめとする専門能力の不断の蓄積と、第三者としての自立性、地域、社会に対するボランティア、プロとしての責任を全うするための賠償保険加入が、当然のように備わって初めて「建築家」と名乗れるのではないのでしょうか。合致できない会員は会から離れていっても私は良いと思います。減少した会員数で維持できる体制に変更するだけです。

建築の良し悪しは、評価基準で分かれますが、世の中には素人が見ても質の高いと分かる建築も確かにあります。JIA会員が各自の作品にJIAブランドマークを掲示し、その建物が世間の方から確かにJIAマークの建物は質の高いものだとして認識を得て、時間と共にそれらが蓄積され文化遺産となって、良い街並みができるのが理想なのですが…。

## 一般会員は望んでいるか。

### 会員減少と財政が心配

大澤秀雄氏の説明はほんとに実態に沿った説明で納得いくものでした。しかし、自分の中にもう一人の人間がいて、「働怠の比丘 不明 日月」。期待し参加した自分ですが、元来怠け者ですから、64歳になる身には明日という日があるかどうか分かりません、と言っています。

2003年に登録建築家資格制度がスタートし、私も同年に加わった一人ですが、今考えるに、十分理解していたつもりでもこれほど人数が減ってくると、一般のJIA会員はUIAに加盟しているJIA登録建築家を望んでいないのではないかとも思えます。自らを律し、CPDもやり、職業倫理を持ち、環境に配慮した良い設計をしていれば、自己満足でも一般よりは上位にいられる。それでもよし、の考えになります。

建築士会が国家資格を望まないこと、国土交通省もするつもりがないと言っている以上、資格者担保とならない今日では、世界の外圧がないかぎり日本のJIAは変わらないような気がします。民主党政権から自民政権になり、建築家法制定もままならない状況であること、また、建設業界の設計施工一貫受注が増える中、登録建築家のセミオープン化は、果たしてどれだけの参加者を望めるのか疑問でもあります。芦原会長の言われる、分かりやすい形として正会員ルートを次年度総会で決議を急げば、さらにJIA会員数も減り、財政的にも会として存続できない事態になるように思えます。

かつてJIA会費が半額になれば会員は倍になるだろうと推し進められましたが、今やJIAも4,200人弱。誰も責任を取らない。同じことの繰り返しが心配です。UIA基準の建築家数5万人と言われるならば、社会制度なしでは不可能です。専業設計事務所の建築家5万人とは建築士会、建築事務所協会、建築家協会、そしてゼネコン設計部を含めた総数の中から意を宣言できるものとするべきだ、とつぶやいている自分がいました。

今重要なことは、総会決議で決すことはできるでしょうから、その後のJIAの未来の姿を描き、活動し、次世代の若者が引き継げるJIA、世界の中でリードできるJIAとすることではないでしょうか。一時的に会員数が減ってもJIAに参加し増え続ける姿だと考えます。

さて、その姿とは。議論する時間がありません。



中村 久 | 中村建築設計事務所 (三重)



会場の様子

## 第2段階へ、かつての

### 議論も踏まえ戦略構築を

最初の登録更新をもって制度設計の第1段階(試行)を終えたとして2007年度総会で「試行から本格運営へ」と宣言、2008年度総会で「建築家資格制度のオープン化の全体像」が示され、第2段階(社会制度としての定着)に踏み出したのだが、第2段階の難しさは当初から予測されていた。2008年5月理事会に本部実務委員会が提出した「建築家資格制度試行の総括」には多くの課題が記述されているが、それらを解決していく総合的な戦略の考察は資格制度推進委員会の職掌として論及されていない。実務委員会は総括提出後に建築家資格制度委員会と改編され、仙田満会長、続く出江寛会長の強い指示を受けオープン化に集中的に取り組んだ(2010年、会員外の専門者を対象とするオープン化実施)。一方で推進委員会は2009年度に閉じられ、第2段階の戦略は曖昧なままに経過してしまったが、今年度になって職能・資格制度委員会が本部に設置され、第2段階の戦略構築の核がようやくでき、停滞の打開がはかれるものと期待していた。

「JIA正会員が全員登録建築家になる」という芦原会長の提言は、第2段階の方策の一つとしてほかの方策とどのようにリンクしているのか、戦略の検討がどのように進められているのか、9/13支部講習会で会長が語ったパラダイムシフトによる資格制度の見直しの方向性は、こうしたことが会員集会で明らかにされるのではと思っていた。しかし委員長からこうした視点での説明は得られず、「JIA正会員が…」に絞られたものであり、資格制度、ひいてはJIAの今後に大きくかわる問題を考えるのに十分とは思えなかった。今回は事前メールおよび当日配布でかなりの量の資料が提供されたが、本部HPの資格制度資料にある、かつての検討、意見(\*)など、より多くの資料のもとでさらに議論が深化することを願っている。

\*アクセス法: 本部HPトップの「建築家資格制度」→最新情報(会員専用)→資格制度資料。ID、パスワードが不明の場合の問い合わせ先はJIA東海支部事務局 shibu@jia-tokai.org



森川 礼 | 中建築設計事務所 (愛知)

## ホクセイ株式会社見学～伊勢神宮（外宮、せんぐう館、内宮）を参拝

2014年11月18日（火）、愛知法人協力会企画CPD研修として、正会員6名、法人協会員6名の12名で工場見学と伊勢神宮参拝を行いました。JR名古屋新幹線側「銀の時計」に朝7時50分に集合し、貸し切りバスにて出発しました。

東名阪で若干の渋滞がありましたが、予定通り9時10分、三重県桑名市のホクセイ株式会社（ホクセイは日本で最初にステンレス製グレーチングを製造・販売した会社です）に到着。山下社長の挨拶をいただいた後、工場見学を行いました。

最初に見学したのは、ステンレス製ドレーンとステンレス製排水トラフの製作工場です。排水トラフとはステンレスの溝のことで、1台1台アルゴン溶接にて製作しています。

次に、グレーチングの材料となるTバー製作ラインに移動し、グレーチングができるまでの工程を見学しました。その後、グレーチングの受枠工場を見学し、実際にグレーチングのノンスリップ性能を体験していただきました。「ノンスリップ形状は凸凸型で水に濡れていても滑らないね」とお言葉をいただきました。

最後に止水板を見学。止水板は、近年雨による被害が増えている中、山下社長が開発に取り組んだ新商品です。この止水板は普通の止水板ではなく、浮力を利用して止

水するという画期的なもので、見学の方もなるほど声をもらっていました。通常の止水板は、人の手で設置したり操作をしたりするものですが、この止水板は、災害の雨を利用するので、誰の手も使わず設置できます。工場見学では皆様の関心が高く、時間があっという間に過ぎていきました。

工場から伊勢に向かうバスの中では、ホクセイのDVDを観覧し、吉澤が説明しました。ホクセイ㈱で頭がいっぱいになった後は、お腹をいっぱいにといいことで、地元では有名な割烹大喜で昼食を頂きました。こちらは、皇室の方々も御食事される本格的な日本料理店です。刺身やブリの照り焼き、あわびを堪能しました。どれもとても美味しかったです。

昼食後は、伊勢神宮の参拝です。伊勢神宮の観光ガイドさんの説明の下、式年遷宮記念せんぐう館を見学。神宮式年遷宮は20年に一度、正宮に隣接する御敷地に新宮を建て、天照大神に新宮へお遷りいただくおまつりで、2013年に行われました。

せんぐう館を後にし、外宮、内宮を参拝。豊受大神宮（とようけだいじんぐう）、通称：外宮はお米をはじめ衣食住の恵みをお与えくださる産業の守護神。皇大神宮（こうたいじんぐう）、通称：内宮のご祭神、天照大御神は皇室の御祖神であり、歴代天



伊勢神宮にて

皇が厚くご崇敬されています。また私たちの総氏神でもあります。今年は、内宮入口にかかる宇治橋の両端の鳥居がそれぞれ20年ぶりに新調されました。新しい鳥居には、式年遷宮後に取り壊された内宮と外宮の旧正殿の屋根を支えたヒノキの「棟持柱」（直径約70cm、高さ約10m）が使われています。

宇治橋に16基ある擬宝珠（ぎぼし）、その中のひとつ、大鳥居から見て左側の2つ目の擬宝珠だけに、宇治橋鎮守神である饗土橋姫神社のお札「萬度麻（まんどぬさ）」が納められています。これは宇治橋の安全と、宇治橋を渡られる方の安全を祈願しているそうです。内宮参拝後、この擬宝珠を触りパワーをいただき、帰路につきました。正会員の皆様との交流もでき、有意義な時間を過ごすことができました。



吉澤智博 | ホクセイ㈱



ホクセイの工場にて性能を体験



伊勢神宮にてガイドの説明を聞く



宇治橋たもとの鳥居

## 前田圭介氏「ホームを拠点としたインターローカルな活動」

12月3日（水）静岡市産学交流センター7階大会議室にて、建築家 前田圭介氏による2014年度第2回建築家講演会が開かれました。

前田氏は、広島県福山市に生まれ、1988年に国士舘大学工学部建築学科を卒業し、2003年にUIDを設立されました。現在、広島工業大学、福山市立大学、神戸芸術工科大学、名古屋工業大学にて非常勤講師を務められています。主な作品に、『アトリエ・ビスクドール』『Peanuts』『後山山荘』があります。

「ホームを拠点としたインターローカルな活動」と題して行われた講演は、前田氏の手掛けた広島県福山市の作品を中心に地域とどのように向き合っているかがうかがえるものでした。また、前田氏がセレクトした本を絡めながらの講演だったため、建築とは違う視点を持ちながら聞くことができたと思います。

私は、福山市と静岡は共通点が多く、前田氏の活動が静岡での活動へとつながる部分があるように感じました。ホーム（自分が生まれ育った場所）がどのように変わっていくのか、言われると気が付く点が多く、「見ているようで見ていないもの」そして「無意識の中で見ていたまち」というお話に、感じるどころが多くありました。特に「情報があり過ぎるから、体験してい

ないのに体験した気になってしまっている」という言葉は心の中で頷いてしまう言葉でした。

前田氏の作品を拝見する中で感じたことは、日本建築を体感できる現代的な建築であるという点でした。「日本建築です」と言われても、外観だけでは、これが日本建築ですか？と思ってしまう建物は、写真では感じるができない、体験することで日本建築を感じることができる空間を持つ建築なのだと思います。

私が今回の講演の中で一番強く印象に残っている内容は、福山市の商店街についてです。福山市にある3分の1がシャッター街となってしまった商店街のアーケードですが、アーケードができた当時はつくる、つぐらぬという議論がされ、それが今では、壊すか、残すかという議論になっている。その中で、古い木造建築だけに価値があるわけではなく、古い鉄骨のアーケードにも価値はあると感じた、と話がありました。確かに、静岡の商店街でも同じことが言えます。そして、まちの人にとっては当たり前前のアーケードという風景に価値があるのだと思います。現在、福山市のこのアーケード商店街では、空き店舗に商店が入り始めているとのことでした。まちの人と一緒に、まちを動かし、人の心を動かし、行政を動かす。まちづくりとは何なのか、ということ



前田圭介氏

再度考えさせられました。

最後に話をしてくださった作品は『後山山荘』でした。『後山山荘』は藤井厚二が兄のためにつくった別荘を再生させた建築です。3分の2が瓦解していた建物を、設計に3年、施工に1年かけ、庭は、東京や九州から集まった学生20名が参加したワークショップを1週間行い、完成させたそうです。多くの人の手、そして多くの職人の技術と時間がかけられたこの建物を地域の人たちに使ってもらいたい、この建物は赤ちゃんと同じ、自立するまで世話を見ていく、と話されました。普段の業務の中では、建ててしまえば、かかわりの少なくなる建築ですが、設計した建物が地元に残り、愛される建築になるために、何をしていく必要があるか、考えさせられるものでした。

前田氏の講演を聞き、1度福山市を訪れてみようと思います。初めにも書きましたが、「情報があり過ぎるから、体験していないのに体験した気になってしまっている」。講演を聞き、行った気になるのではなく、実際に自身で体験することが今必要なことだと感じています。

今回の前田氏の講演会は、静岡の良さを再度確認することができる良いきっかけになるものだったと思います。



講演の様子



熱心に聞き入る参加者。愛知の会員の姿も



石川正子

## ROKI研究開発棟+フローリング工場見学会

12月4日(木)、JIA静岡建築ウォッチング「ROKI研究開発棟+フローリング工場見学会」が行われました。午前中は、国産無垢フローリングで数多くの実績のある佐藤工業(株)の工場見学、午後はROKI研究開発棟を設計者である小堀哲夫氏に解説をしていただきながらの見学という内容でした。ROKI研究開発棟は民間企業の研究施設ですので、なかなか見ることができないのですが、今回は特別に見学させていただけるということで、非常に楽しみにしておりました。

佐藤工業(株)は島田市(旧金谷町)で昭和30年より、多種材フローリングを取り扱うメーカーで、特に無垢の床暖房用のフローリングを製造している数少ないメーカーです。

材料は丸太での仕入れではなく製材したものを仕入れること、天然乾燥を行った後(約2カ月)人工乾燥を行うこと、床暖房用の材料は伸縮率の低い桎目材を使うことなど、丁寧に説明していただきました。品質管理において、職人さんが梱包する単位で実際敷き並べて光をあてながら確認する作業している姿を見て、より良い製品を提供したいという想いが伝わってき

ました。

ROKI研究開発棟は、東洋汙機製造株式会社というフィルターメーカーの研究開発施設です。

環境との共生をテーマに「知恵と創造の場」にふさわしい研究施設としてプロジェクトがスタートし、長い年月をかけ、配置計画と基本方針を決められました。検討段階において、設計者である小堀氏とクライアントで、ルイス・カーンのソーク研究所を訪れたとのこと。そこで、サーフボードを持って海に向かう研究者を見た小堀氏は、従来とは違う研究施設のあり方を学んだとおっしゃっていました。

小堀氏は、実験などの専門的なラボのゾーンと自由な発想を生み出すための執務空間を切り離し、空間の質を変えることで気持ちの良い研究施設を実現しました。風の流れ、温度などのデータを基に立体的なオフィスゾーンが配置され、ガラス、ポリカーボネートなどの屋根と木格子天井とROKIフィルターによるダブルスキンの半透明屋根に包みこまれたシンプルな構成となっています。

実際に建築空間を体験してみると、非常に伸びやかな空間で、オープンテラスにい

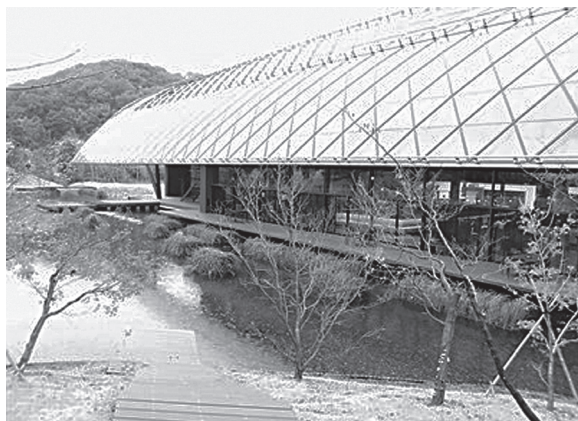
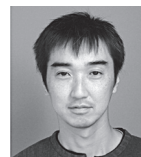


佐藤工業(株)の工場にて

るような開放感があり、気持ちの良いものでした。働いている方たちも、それぞれが快適な場所を見つけて仕事をしているようで、充実した雰囲気が伝わってきました。

今回のウォッチングで非常に印象深かったのが、小堀氏の人柄でした。抑揚を抑えたしゃべり方で建物の説明を淡々とされ、理路整然としていて分かりやすく、設計思想や建築に対する想いなどがじわじわと伝わってきました。このような人柄がクライアントの信頼を得て、建物の要求性能を満たしながら、気持ちの良い空間を実現しているのだと感じ、設計者のあるべき姿を学ぶことができました。

大橋康孝 |  
高橋茂弥建築設計事務所



ROKI 研究開発棟 外観



同 内観

## 置塩淳夫氏による講演会

11月8日(土)、今年度2回目の「JIAの窓」が、岐阜市内玉宮町の「円相玉宮」で開催されました。

「JIAの窓」は、岐阜地域会の会員の勉強会を兼ねて、他地域会の会員はじめ会員のネットワークを生かして講師を招聘し、講演会や会員の日頃の活動を発表する場です。そして地域の大学教員や学生、若手建築家など広く参加を呼びかけ、JIA活動を広報しながら会員拡大につながるように、地域に開放された「窓」となるべく行われている事業です。

今回、車戸が講師の選定を担当することになり、若手の建築家、置塩淳夫氏(略歴は文末に)をお招きし、日頃の設計活動を講演していただきました。置塩氏が名大の学生のときに親しく酒を飲む機会を得て、また彼が大学院卒業後スペインに遊学した折、生活の拠点となる寄宿の場を紹介するなど、置塩氏の学生時代から交流を深めてきました。

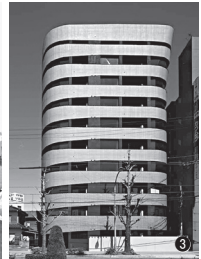
名大では同窓会が卒業設計の中から1作品を表彰する制度があり、私とその選考委員の一人となり置塩氏の卒業作品を選定して、詳細に説明を受けたときが最初の出会いであったと記憶しています。その卒業作品の紹介から講演会が始まりました。

### 1. 卒業作品

伊勢湾岸は国道1号線や名四国道など、東海地方と近畿地方を結ぶ主要幹線道路が走っており、また三重県の長島町附近は輪中地帯として知られています。そこに「TRANSTATION」と名付けられた、「輪中」をイメージした円形の自動車交通の多様な機能を集積させた拠点を提案したもので、コンセプチャルながらも施設諸



写真1: オフィス計画  
写真2: 自動車学校  
写真3: マンション計画  
写真4: 幼稚園  
写真5: 住宅



機能や配置計画などが十分に考察されていて、形態的にも美しい構成となっています。コンセプチャルなものほど、時間を超えて生きつづけるもので20年後に東北地方で実現されるかとも思いました。

### 2. オフィス計画(写真1)

生産部門を持ったオフィスの計画です。最終案に至るまでに、数多くのスタディーモデルにより、平面計画や外観などが検討されていました。「比較的検討時間があつた」と置塩氏は語っていましたが、その期間が3カ月間であったということは、実に密度の濃いスタディーであり、若いエネルギーの力強さばかりでなく、彼の建築への熱い想いが伝わってきました。写真のエントランスも大胆な構成でありながら、構造的な処理やディテールも確かなもので、水辺との親水性も空間化されています。

### 3. 自動車学校(写真2)

自動車学校の管理棟です。折紙のイメージで覆いの空間がつけられていました。平面計画は極めてシンプルな構成で



会場の様子

構造的にも明解でありながら、内部はロビーの吹き抜けやスキップフロアなど豊かな空間構成が演出されています。大胆で美しいフォルムの架構も、平面計画・構造計画共に無理がなく整合性がとれているのには驚かされました。そのほか名古屋駅近くのマンション計画(写真3)、幼稚園(写真4)、住宅(写真5)と作品の紹介がありました。

誌面がなくコメントは省きますが、実務を始めて10年程度で、これだけの構成力とフォルムの力、平面計画の確かさは才能としかいえず、今後の彼の活躍が楽しみなのは私だけではないでしょう。

置塩淳夫(おきしお・あつお) | 1978年兵庫県生まれ。2001年名古屋大学工学部社会環境工学科卒業。2003年同大学大学院環境学研究所修士課程修了。2003年~04年乃普創設計工房、2004年~14年菅匡史建築研究所、2014年置塩淳夫建築設計事務所設立。



車戸慎夫 | 車戸建築事務所

## 草津「追分」宿場町周辺散策

2014年11月1日(土)の琵琶湖、草津の建築ウォッチングは、本年も会員以外の方々に多数参加いただき、また新たにご友人もお誘いいただき、会員参加が少ない中、ありがたいものです。JIAの企画が喜ばれていることの表れではないでしょうか。これからも期待にこたえていかなければとの思いです。

### ●琵琶湖博物館

小雨の中、県立琵琶湖博物館に到着。広い館内を自由見学となり、私は特別企画展を観ました。われわれの暮らしは上水道の完備で豊かになりましたが、上水道以外の水の利用の実態を調査・研究した特別企画展は、湖と人の暮らし、また、食文化を通じた日本列島、漁業の様子など興味深いものでした。昔の地域文化や中国の太湖湖辺の水郷風景を紹介し、水環境との付き合い方を問い直しているように感じました。

人々の努力もあり、琵琶湖の水質も以前より随分良くなったと思います。琵琶湖の水は磁場により時計回りしていることは案外知られていません。そもそも自浄能力を持っているのです。「山を觀れば水を知り、水を觀れば暮らしを知る」。いつまでもきれいな湖であってほしいものです。

### ●旧東海道の52番目宿場、草津宿

雨も上がりました。やはり近畿で一番暮らしやすい街、雨の少ない街なのではないでしょうか。私の日頃の行いがよろしいのでしょうか。草津市内を流れる天井川は、伏流水を酒づくりに生かされたとのこと。今も栄える太田酒造の由来は、徳川家3代で整備した旧東海道、中山道が交わる重要な地点として、江戸城をはじめ数々の城を築いた太田道灌の子孫を大事にし

た徳川家康が、太田一族に草津治安警備役として酒造を生業とさせたことが始まりです。当時100馬、100人を抱えた宿場の街道荷捌き場所、チェック場所としての機能を備えていたようです。時間の関係で太田酒造へは入れず残念です。

草津には2つの本陣、4つの脇本陣、100の旅籠があったようで、その一つ、田中七左衛門本陣は日本に現存する本陣では最大級の規模(敷地1,305坪)です。街道から向かって内部は中央に土間があり、右側が田中家住宅、左側は本陣の配置です。内部土間へは馬や荷物が直接入り、土間を抜けて敷地内にある馬小屋へ導かれる配置です。格子戸は全体が天井へ跳ね上がる構造となっていました。当時の様子が目に浮かびそうです。

しかし、本陣を維持するのに大政奉還後100年間の苦労は大変なものであったとのこと。平成になり、草津市と田中家の共同経営となり、8年間の修復も終わり、やっと安泰となった今、草津市の観光の目玉としての存在は重要で、周辺整備も今後の課題でしょう。



東海道と中山道の交差部が記されている



上 | 草津宿にて 下 | 田中七左衛門本陣にて記念撮影

その本陣横にある旧中山道の始まり場所との交差部は、現在天井川にマンボ(トンネル)を掘り旧中山道と結ばれていますが、掘る前の風景が見たい気がしました。案外昔のままが良いかもしれません。今回お世話になったボランティアガイドの方々の常駐場所となっている草津夢本陣は地域のFM基地、無料休憩所となっており、ぜひお立ち寄りくださいとのこと。次回訪れたときは太田酒造店内と共に立ち寄り、そして53番目宿大津宿へと足を延ばしたいものです。

中村 久 |  
中村建築設計事務所



## 3.11 からの石巻 「ISHINOMAKI2.0」②



JIA 神奈川 オンデザインパートナーズ 西田 司 勝 邦義

東日本大震災から4年近く経つ現在、宮城県石巻市の人口は15万人を割り込んだ。震災直前まで16万人以上だった人口は被害が大きかった沿岸部を中心に急速に減少していった。一方で震災直後より多くのボランティアが石巻を訪れ、各地でさまざまな取り組みが始まっている。たくさんの人たちが石巻を訪れた結果、現在では拠点を石巻に移して活動している人々も相当数存在している。

オンデザインは石巻を震災前に戻すのではなく、石巻の前向きな未来をつくる運動として始まった「ISHINOMAKI2.0」に2011年より参加している。この4年間、さまざまなプロジェクトを通じて、まちをひらくことを徹底してきた。多くのまちが抱えている問題をそのまちだけで解決しようとするので行き詰まりを感じていたが、「ISHINOMAKI2.0」では石巻というまちをひらき、多様な主体を受け入れながら、まちの未来を考えていくことに可能性を見出している。

プロジェクトのひとつ「2.0不動産」ではまちの遊休不動産を活用し居住人口を増やし、まちなかに新規事業者を受け入れ

ることをサポートしている。これは被災者救済を徹底しなければならない大きな計画が、フォローしきれない多様な居住者を増やすことにも繋がっている。「2.0不動産」は若い人たちがまちなかに生活や仕事の拠点をもつことで、まちを形づくっていく人たちが少しずつ増え、まちの輪郭が変わっていくことを目標としている。石巻市からの委託事業である地域自治システムのサポート業務も2013年より始まった。桃生地区と山下地区という古くからの居住者が多く住む同2地区で、住民が自立的な活動をするためのサポートを行政と住民との間に立ち進めている。住民たちの自発的な声に耳を傾け、彼らがやりたいことと行政とが協力できる場面があれば、彼らと行政の橋渡しをする。「ISHINOMAKI2.0」の活動はまちをつくる人たちに対してまちを開き、かかわる人たちを増やしつづけることに繋がっている。

「ISHINOMAKI2.0」を通じて、小さな活動や顔が見えるくらいの関係性のなかから広がっていき、結果的に誰もが参加できる公共的な場所が生まれていくことを実感している。東日本大震災後の東北地方の各地はこうした状況が加速したとも言

える。今年は阪神・淡路大震災から20年目の節目にあたるが、阪神・淡路大震災後の状況と比較して、多くの主体が積極的に、それまで自分とはかかわりのなかった地域で活動を始めている。1995年当時にはあまり定着していなかったボランティアという言葉も、今ではすっかり馴染み深いものになり、ボランティアという言葉の定義もこの数年でさらに多様化した。結果、阪神・淡路大震災のときにはなかったような、地域内外を問わず多くの主体を巻き込みながら、つくりあげていく場が東北各地に現れたとも言えるのではないだろうか。

石巻を見渡すと「ISHINOMAKI2.0」がかかわるものだけでなく、さまざまな動きが始まっている。居住人口が大きく減った牡鹿半島のひとつの浜で始まった「はまぐり浜再生プロジェクト」はたくさんの人たちがかかわる場だ。

プロジェクトのひとつである浜の高台に位置する古民家を改装したカフェには毎週末、多くのお客さんが県内外から押し寄せている。震災後半数以上の人口が流出した雄勝地区では、築90年の廃校を再生し、自然学校に生まれ変わらせる計画が進んでいる。事業を仕掛ける「SWEET TREAT 311」のもとには、学校再生に参加する企業や個人ボランティアが毎週末に足繁く通っている。オンデザインも設計にかかわり、今年「MORIUMIUS」という名前で再スタートを切る予定だ。中心市街地の松川横丁に計画中のCOMICHIは、小さな路地に面する土地の4名の地権者が共同で建物を新築する計画。シェアハウスや店舗、地権者住宅を一体化し、手に負える範囲、顔が見える関係のなかで店舗と住まいを複合させた建物をつくる予定だ。

たくさん主体がつくり上げていく空間は、常に完成形としての明確な輪郭をもたない。今年6月には、被災し一部区間を運休していた仙台と石巻をつなぐJR仙石線も再開する。石巻へのアクセスが大きく改善されるこの機会に、ますます変化する石巻の状況を確認めに、ぜひとも足を伸ばしてほしい。



左 | 「2.0不動産」による改修の様子。多くの人を巻き込みながら進めている  
右 | 雄勝町旧桑浜小学校を再生した自然学校「Moriumius」(模型)





## 「フクシマ現状レポート」 双葉町へのバスの中で

JIA 東海支部 ワーク・キューブ 吉元 学



さる11月7日にJIA東北支部大会2014福島相双地区の現状視察に参加しました。朝9時に福島駅よりバス3台に乗り込み東に向けて出発です。大会で基調講演をする内藤廣氏も同乗されています。最初に注意事項として画像のSNSや機関誌への投稿の禁止を言われました。また浪江町の見学および住民の方の同行も町から直前に拒否されたそうです。どうやら現状を見せたくない方がいるようです。車内では双葉町の住民で現在白河市郭内仮設住宅自治会長の谷充さんよりお話を聞きました。

谷さんは学校卒業後東京に就職し10年間日本航空で整備の仕事をした後、故郷である双葉町で「コシヒカリ」をつくる米農家になりました。3.11の震災後はまず、軽トラで川俣町の小学校に避難しました。普段なら1時間で行けるところ8時間もかかったそうです。当日夜の食事はおにぎり一つとジュースだけでした。ここで2日間過ごした後、福島駅近くの三河台小学校に移動。乾パンは年寄りには歯が立たず辛かったとのこと。プールからバケツリレーでトイレに水を運んだそうです。携帯電話は震災後4、

5日過ぎてから開通しました。次に親族を頼って会津若松へ行き、一週間ぶりに風呂に入ったそうです。「どこにも長くいられないですけどね」との言葉が印象的でした。それから東京の青山に3週間、埼玉県加須市にある廃校になった旧騎西高校に4月11日にたどり着きます。何も持っていないので薄着で風邪をよく引いたそうです。食事は仕出し弁当で毎日同じようなメニューになり、1年にわたる避難生活で体を壊した方が多いそうです。双葉町の震災での直接の死者・行方不明が約30人に対して、埼玉での1年の避難生活の死者が167人ということからも避難の大変さがしのべられます。そして平成24年3月から白河市の仮設住宅に暮らしています。

### 双葉町に到着

双葉町役場で職員の方がバスに乗り込んでくれました。原発まで3kmの距離ですが、山の陰で福島第一原発は見えませんでした。役場の南と東の土地が中間貯蔵施設の候補地になっています。1月1日から運び入れる計画だそうです(町長は懇談会を開くと

くと言ってまだ開いていない)。街の中心に入ると時間が止まったようでした。双葉町体育館の横のゲートには「原子力明るい未来のエネルギー」、裏には「原子力正しい

左上 | 双葉町の谷充氏。現在は白河市に避難している  
 左下 | 除染した後の土を入れる通称「トンバック」。これを中間貯蔵施設に持ち込むのだが袋は5年ほどしかもたないそうだ(飯館村にて)  
 右 | これより立入禁止。ガードマンの方はマスクだけで大丈夫だろうか? 国道6号線は通行できるがコンビニ以外の店舗は閉鎖されている。また、立ち止まることは禁止されている。通行する車はほとんどが除染関係者で、多くの家に空巣が入ったそうだ(双葉町にて)



理解で豊かなくらし」と書かれているのが皮肉です。これは双葉町の小学生から募集したものだそうで、教育の大切さと怖さを考えさせられます。ここでの放射線量は3.128 $\mu$ Sv/hから0.277 $\mu$ Sv/hでした。場所によってはまだまだ汚染されています。

市街地をひと通り巡った後に海浜公園に行きました。ここは中間貯蔵施設建設の準備用施設を工事中です。役場横の中間貯蔵施設が完成した後は企業誘致用地と震災復興公園になるそうです。役場の方は復興のために一生懸命活動しておみえですが、本当に町民の方や企業は帰ってくるのでしょうか?

### 今のフクシマ

避難指示区域は帰宅困難区域・住居制限区域・避難指示解除準備区域の3つに分けられます。指定される区域によっては「道一本違うだけで」賠償金が2000万円ぐらいい違うそうです。こんな状況では住民は疑心暗鬼になり信頼の輪も薄れ、故郷は崩壊していきます。谷さんは、双葉町民は中間処理施設がつけられることを覚悟している、他県での受け入れは無理であり、ただトップダウンでやり方がひどい、「地震・津波は天災だが原発事故は人災だ」と言いました。

最後に質問させていただきました。「原発立地の地方へのアドバイスは?」。辺見東北支部長は「何かあったらすべてを受け入れることを住民が了承し、覚悟すること」「原発は危険ドラッグのように原発立地自治体の基幹産業になり、ジワジワと締め上げるから途中から引き返すことは難しい」と言われました。

### これからのトーカー

帰りのバスで初代JIA災害対策委員長の中田準一さんよりいいお話を聞きました。「3人仲間を集めると組織の中での発言が『私』ではなく『我々』になる」。まずはここからスタートです。今回見聞きしたことはフクシマで起きていることほんの一部かと思いますが、JIA東北支部の皆様、双葉町の職員の皆様、貴重な体験をありがとうございました。

# 第46回 中部建築賞 入賞・入選・特別賞作品

主催：中部建築賞審議会

応募数は一般建築部門52点、住宅部門44点の計96点（昨年は85点）であった。9～10月にかけての第1回審査、現地審査、第2回審査を経て、入賞12点、入選4点、特別賞2点の合計18点が決定した。

## 審査員（順不同、敬称略）

新居千秋（審査員長／建築家）	菅原洋一（三重大学大学院教授）
笠嶋淑恵（建築家）	陶器浩一（滋賀県立大学教授）
川口亜稀子（建築家）	増澤信一郎（建築家）
貴志雅樹（富山大学教授）	柳沢 究（名城大学准教授）

## 一般部門 入賞

①所在地 ②建築主 ③設計者 ④施工者 ⑤構造・規模 ⑥延床面積 ※住宅部門は②は表記せず



**やわらぎ 森のスタジアム** ①愛知県豊田市 ②小島健康保険組合 ③株式会社竹中工務店名古屋一級建築士事務所 ④株式会社竹中工務店名古屋支店 ⑤S造 地下1階 地上1階 ⑥12,480.39㎡



**クリニック かけはし** ①名古屋市 ②医療法人ひさご ③株式会社NTTファシリティーズ ④株式会社松村組名古屋支店 ⑤S造 地上2階 ⑥711.13㎡



**かんがるーのおうち うれしの東保育園** ①岐阜県羽島郡 ②社会福祉法人 登豊会 ③大建 met・大建設設計 ④内藤建設株式会社 ⑤木造 一部RC造 地上1階 ⑥269.6㎡



**サイエンスヒルズこまつ** (左)  
①石川県小松市 ②小松市 ③株式会社スタジオ建築計画・UAO株式会社 ④熊谷組・加越建設特定建設工事JV ⑤RC造 一部S造 地下3階 ⑥6,063.03㎡



**金沢市立小立野小学校** (右)  
①金沢市 ②金沢市 ③株式会社山岸建築設計事務所 ④中高学年棟：真柄・鈴木・高田特定建設工事JV 交流棟：城東・北川ヒューテック特定建設工事JV 屋内運動場棟：真柄・吉田特定建設工事JV 低学年棟：みづほ工業株式会社 プール棟及び共同調理場：真柄建設株式会社 ⑤RC造 一部SRC造、木造 地上2階 ⑥8,650.66㎡

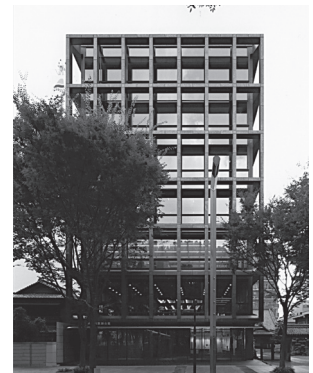
## 入選



**若鶴大正蔵** ①富山県砺波市 ②北陸コカ・コーラボトリング株式会社 ③蜂谷俊雄+株式会社金沢計画研究所 ④松井建設株式会社北陸支店 ⑤木造 地上2階 ⑥990.89㎡



**琵琶湖のエコトンホテル／風の音 ヤンマーマリーナホテル セトレマリーナびわ湖** ①滋賀県守山市 ②セイレイ興産株式会社 ③芦澤竜一建築設計事務所 ④戸田建設株式会社 ⑤RC造 一部木造 地上3階 ⑥2,800.09㎡



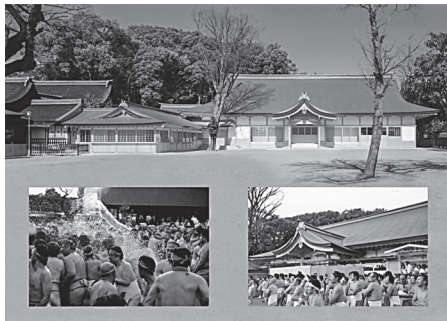
**愛知県歯科医師会館** ①名古屋市 ②一般社団法人愛知県歯科医師会 ③株式会社山下設計中部支社 ④株式会社フジタ名古屋支店 ⑤S造 一部SRC造 地下1階 地上6階 塔屋1階 ⑥6,212.70㎡

入 選

特別賞



**Dragon Court Village** ①愛知県岡崎市 ②(有)ユタカ不動産 ② Eureka ④太啓建設(株) ⑤木造 地上2階 ⑥ 508㎡



**尾張大国霊神社 儼追殿** ①愛知県稲沢市 ②尾張大国霊神社 ③(株)木内修建築設計事務所 基礎設計: (有)太田建築設計 ④清水建設(株)名古屋支店 ⑤木造 地上1階 ⑥ 598.15㎡



**Share 金沢** ①金沢市 ②社会福祉法人 佛子園 ③(株)五井建築設計研究所 ④みつほ工業(株) ⑤木造 22棟 S造 3棟 地上1階 18棟 地上2階 7棟 ⑥ 8,098.69㎡ (25棟合計)

住宅部門

入 賞



**Turn, Turn, Turn, (左)** ①愛知県弥富市 ③(株) bandesign ④愛三建設(株) ⑤RC造+木造 ⑥ 212.56㎡



**栄町の光溜 (右)** ①愛知県豊田市 ③佐々木勝敏建築設計事務所 ④(株)井上工務店 ⑤木造 地上2階 ⑥ 147.67㎡



**コヤノスミカ (左)** ①静岡県焼津市 ③(株)エムエーススタイル建築計画 ④(株)カネ子工務店 ⑤木造在来工法 地上2階 ⑥ 82.55㎡



**Y o (右)** ①石川県能美市 ③(有)ICU 一級建築士事務所 ④(株)長坂組 ⑤RC造(壁式構造) 地上1階 ⑥ 71.35㎡

入 選



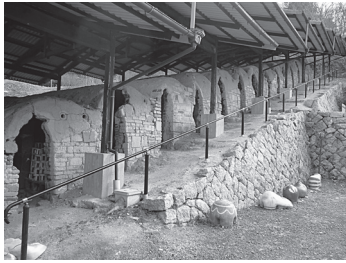
**Hakuba House\_風景をつくる家** ①長野県北安曇郡 ③名古屋大学 太幡英亮 ④(有)彦工務店 ⑤木造 地上2階 ⑥ 164.21㎡



**豊田の住宅 QUALIA** ①愛知県豊田市 ③clublab. ④(有)小林工務店 ⑤木造 地上2階 ⑥ 166.16㎡



**ワークショップ** ①静岡県御前崎市 ③(株)エムエーススタイル建築計画 ④(株)小澤工務店 ⑤木造在来工法 地上1階 ⑥ 75.36㎡



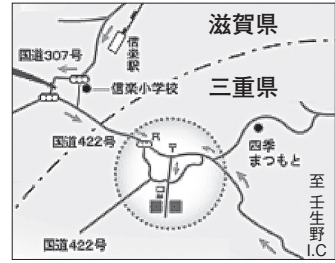
旧登り窯



旧事務所「大正館」



「大正館」内部



長谷園HPより一部抜粋

■紹介者コメント

伊賀焼の郷を訪ねた。古くから多くの窯元がある。その一つ長谷園の旧登り窯・旧事務所「大正館」が、平成23(2011)年、登録有形文化財に登録された。旧登り窯は天保3(1832)年の創業時から昭和40年代まで稼働していた。この大きさ(全長34m・16連房)の窯は、現存している登り窯で日本ではここだけといわれている。この16連の窯を焚きあげるには、15～20日間を要したとのこと。まずはその長大な姿に圧倒される。大正館は10年前まで事務所として使用されてきた。大きく窓を開けた開放的な事務所で、大正ロマンを漂わせる空間が残されている。現在は来訪者の休憩コーナーとして開放されており、珈琲を愉しむこともできる。

平成26(2014)年11月には、新たに12件が登録有形文化財に追加された。風格を備えた茅葺きの主屋、もと隠居部屋で洋間の付いた別荘、客間の離れ、蔵・門・塀などの住宅部分。そのほかに陶器の製作にかかわる施設が残されている。絵付けや土いじりのできる体験工房は、大正館の南にあり、長い平屋建てでキングポストラスの小屋組に大正期らしさが見られる。主屋東隣の第一展示場では、さまざまな器が並び直売されている。第二展示場には、伊賀の作家モノが、第三展示場には、鍋の館として多種の土鍋が展示されている。二階は資料館となっている。

この地域は、太古には琵琶湖の底で、堆積した土の中に炭化した植物を多く含む。これから型どり

焼成すると、多孔質の器となり耐火性が上がる。熱を蓄えてから、じっくり芯まで伝えるので料理が美味しく仕上がる。わが家では、用・美・楽を求めてつくられた長谷園の土鍋が、冬には毎晩のように食卓の中心に座っている。ご飯炊用の土鍋「かまどさん」も永年重宝に使い続けている。陶芸・料理に一家言ある方にぜひご褒美する。

長谷製陶株式会社  
所在地：三重県伊賀市丸柱569  
登録番号：旧事務所 大正館 24-0118  
旧登り窯 24-0119  
その他 不明



山田正博 | 建築計画工房

データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

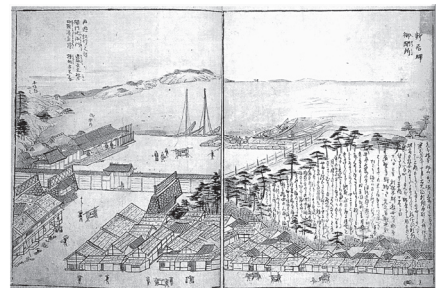
国指定特別史跡 新居(あらい)関所跡



全景



「面番所」内部



高力猿猴庵画「新居驛御関所」

■発掘者のコメント

江戸時代に、江戸の防衛を目的として各街道の要所に関所が設けられた。新居関所は関所の建物として現存する唯一の建物といわれ、舞坂宿と新居宿の間に位置している。

資料によれば、慶長5(1600)年の創設、元禄年間津波により移転、宝永4(1707)年の地震により建物が全壊、翌年に現在地に移転。現在残る建物は、幕末の嘉永7(1854)年の大地震により大破、安政5(1858)年までに再建された建物で、「面番所」、その東北に「書院」、西北に「同心下改勝手」がある。江戸時代にはそのほかに「番頭勝手」「台所」「女改長屋」「船会所」「土蔵」などがあり、

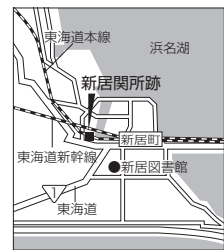
西には大御門があった、それより西には新居宿が広がっていたと伝えられている。

関所の中心的建物である「面番所」は南を正面とし、木造平屋建て、入母屋造り本瓦葺き、三方に本瓦葺きの下屋を廻す。旅人を「改め」、役人が事務を執る「面番所」は東西に長く、間口4間×奥行2.5間、20帖と間口5間×奥行2.5間、25帖の2室が並んで配置されている。下屋境の柱割が2室で異なっているのが興味をそそる。

明治以降、関所は廃止され、その後は小学校、図書館、そして役場とさまざまな用途に活用され、昭和30(1955)年に国の特別史跡に指定。昭和47(1972)年の大修理によって往時の姿に復元される。

しかし今日、関所周りは埋め立てられ地形が大きく変化しているため、版画などに見られる「海の関所」と印象が大きく違っているのは残念である。

所在地：静岡県湖西市新居町新居 1227-5  
建築年代：安政5(1858)年  
昭和30(1955)年国の特別史跡に指定



三輪邦夫 | RE建築設計

## 会員拡大対策を早急に要請

本部理事 鳥居 久保



2014年度第3回理事懇談会は、2014年11月19日（水）13時40分～14時30分までWEB方式にてJIA館5階A会議室で行われた。出席者は、会長以下、理事20名（3名欠席）、監事1名（1名欠席）、事務局3名であった。

### 【議題】

#### 1. 建築家資格制度改革について（大澤理事）

正会員が全員登録建築家になる件（正会員ルート）について、支部長会議（11/16）での議論の紹介も含めて大澤委員長から報告があった。

支部長会議で各支部長の意見を聞いた。スケジュールがタイト過ぎる、1級を持ってない会員の扱いはどうするか？（サンセット方式か）、意匠職以外の人の扱いは？ なおも社会制度ルートを残す理由とは何か、登録建築家0人の熊本地域会が象徴するように九州では認識の低さが問題、更新時期にCPDの単位が取得できない会員の退会が問題、JIAアーキテクトの呼称は混乱を招く、登録建築家の制度をいじるのではなく正会員の資格をここで定義するのだ、などの意見が出ていたが、最後に会長のまとめがあった。

「JIAが公益保護、公益寄与を掲げる職能団体であるからには、UIA基準の登録建築家資格は最後の砦である。JIA正会員全員が登録建築家になることによって、CPDなどで正会員の質を高く保ち、それによってUIAの国際基準に準拠させ、その中にJIAの存在意義を見つけるべきである。

そういった意味でまずはJIA会員資格をきちんとすべきである。その後に情勢が変化して他会との連携があっても構わないが、まずはJIAの内部的な問題としてとらえたところで、新たな制度を実現させたい。」

#### 2. 会員増強について（道家委員長）

13、14年度で正会員が約300名減少（1,350万円の会費収入の減少）。これは危機的状況。各支部には会員拡大の対策を早急に実施することを要請する。入会対象者のリストの作成や、入会キット（申込書、建築家憲章、定款）を各支部で作成し勧誘対象者に渡すなど、できることから実行してもらいたい。

東海支部は義務目標数、10名。

#### 3. 役員候補者選挙規程について（上浪委員長）

東海支部の理事は隔年で2名ずつが改選されてきたが、これを1名ずつに変える意向が再度示された。そのために東海支部の選挙がない年に1人理事を選挙して3名に増員する案を、来月の理事会

に提出する（さらにその翌年、定数を2名にするために、選挙規程を再度改正する）。

#### 4. 知的生産者選定に係る公共発注システムの創造性を喚起する施策に向けて（仙田満氏）

日本学術会議（会員約200名）の中に土木工学・建築学委員会があり、仙田氏は現在その委員。

土木、公園、都市計画の設計者選定の問題に取り組んでいる。現在の公共工事の発注形態は入札がほとんどで、随意契約はほとんどない。プロポーザル、コンペでの設計者選定は1%以下。政令指定都市でやっと10%以下。ここには自治体ならではの会計法の壁が存在し購買の概念で設計が扱われていることが価格競争を招き、元凶となっている。この現状に対し、見直しとともに「創造性の喚起」を促し、改善に向けて提言を行っている。

#### 5. 「JIA建築家大会2016」について（原田事務局長）

2016年の建築家大会の開催支部は、四国、沖縄、近畿辺りか。ただ、直前で決まるのを避けるため、先の5年間程度は決定しておいた方がよい。

#### 6. JIA環境会議について（筒井専務理事）

JIA環境会議を組織に位置づけした中で、ワーキンググループ（環境行動ラボ）委員は関東の委員ばかりで、全国会議のWGになっていない。言い換えれば現状のままWGを組織すると、全国会議から外れることになる（例えば支部の下の委員会や部会としての位置づけになる）。そのあたりの認識を議長には正確に受け止めてもらえるよう、新制度の下での全国会議の枠組みを踏まえて、来月の理事会で確認する。

#### 7. まちづくり全国会議の委員募集について（筒井専務理事、連理事）

まちづくり全国会議は、委員が決定していない。各支部に1名の委員の推薦を要請する。

#### 8. JIAロゴの取り扱いについて（鈴木委員長）

JIAロゴの正規なものをデータ化した。データを各支部に送るので、今後使用する。

#### 7. その他（筒井専務理事）

- ・ 公共建築の発注方式が大きく動き、揺らいでいる。これに関する意見交換会を建築家会館でJIAマガジンが主催して12月3日に開催する。
- ・ 建築まちづくり基本法に関してはJIAの素案ができていない現段階で、議員立法を視野に活動していく場として特別委員会を立ち上げた。

# 東海支部役員会報告

10年前に東海支部幹事を務め、今年度より再度務めさせていただくことになりました。現在JIAは、「JIA正会員」が全員「登録建築家」なることについて問題を抱えており、2014年12月16日に急遽「JIA東海支部会員集会」として会員に対し議論の場を設け、広く参加を呼び掛けることが役員会で承認されました。また、2015年は愛知でJIA東海支部大会2015が開催される予定で、今回の役員会で委員会の構成が承認されました。4地域会で、よりよい大会になりますよう協力していきたいと思っております。

加藤幸治 | 加藤計画工房



日時：2014年11月21日（金）16：00～18：00

場所：昭和ビル5階 JIA東海支部会議室

出席者：支部長、幹事10名、監査1名、オブザーバー7名、顧問1名

## 1. 支部長挨拶

全国支部長会議、理事会などにおいて資格制度の話が多く、どの会議においても登録建築家の議論に時間をかけている。東海支部も会員集会の開催を通して、周知していきたい。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

①第3回 理事懇談会（11/19）（石田） ※P21理事会レポート参照

②第16回フェロシップ委員会（11/13）（谷村）

13：00～17：00 京都で持ち出し委員会が開催された。

③第4回 支部広報委員長会議（11/18）（奥野）

18：00～18：30に開催された。

④第8回 本部広報委員会（11/18）（奥野）

18：30～20：00に開催された。

### (2) 支部報告

①第6回 東海支部CPD評議会（10/31）（塚本）

・15：00～16：00に開催された（内容は、前回口頭で話したものと同じ）。

・11月21日（金）15：00～16：00にも開催され、愛知地域会より、CPD認定プログラムの事業追跡調査をしたところ、事後に本部へ参加者名簿が出されていなかった事業が数点あり、各地域会は支部事務局より一覧表を確認の上、過去にさかのぼって対応してほしい。

(3) 各地域会からの報告（各地域会長） ※P23地域会だより参照

## 3. その他

### 議事

#### 1. 審議事項

①事業報告 東海住宅建築賞2014の件（吉元）承認

②事業計画 資格制度委員会「支部会員集会」（12/16）の件（鈴木）承認

・本日、CPD認定プログラム2単位認定された。（塚本）

・定員は、60名である。（鈴木）

③JIA東海支部大会2015 大会実行委員会発足の件（谷村）承認

・大会委員会、実行委員会構成員の件

・実行委員会は、大会委員長、幹事長も構成員とし、支部長へ報告する。

④後援名義使用のお願いの件

東海建築文化センター「東海開発許可制度研修会」（2015/2/10・2/20）（久保田）承認

## 2. 協議事項

①本部理事選出について（石田）

・本日、支部長、幹事長、顧問、各地域会長、関係者含めて検討をした。

・東海支部の改選の方法を1期2年とし、1年ごとに改選する。

## 3. その他

①東海支部役員会日程変更について（久保田）

・支部役員会の日程を2月27日（金）、3月27日（金）、4月23日（木）に変更する。そのため各地域会の予定を調整して下さい。

・ただし、3月4月は本部理事会によっては変更あり。

②東海支部「持出役員会（静岡）」について（久保田）

・2月か3月でお願いします。3月は総会前など議事が多いので2月27日を予定したい。

③2015年度予算について（久保田）

・各地域会会長に送付してあり、1月23日までに地域会の事業計画と事業予算を地域会の役員会を通してから事務局、幹事長に報告すること。

・1月30日の支部役員会で承認したい。

・12月12日までに4つの事業委員会の支部事業も上げてほしい（新々会計の表に記入）。

・会議費、交通費も計上すること。

・事業費50万円を超えるものは、提出してください。（小田）

④支部財政委員会について（見寺）

・12月4日（木）16：00から支部総務委員会を開催する。東海支部大会2015の予算について。

・来年の支部大会の予算は愛知地域会で負担するが、その2年後はどうするのか。

・愛知建築士会は、引っ越しされるようである。

・支部会費を取るのか、「ARCHITECT」の発行費用について見直し、昭和ビルからの引っ越しも視野に入れて検討する。

⑤西日本災害対策ネットワークについて（石田）

・近畿支部から依頼があった。

・設立趣意書を本部に提出し、はっきりするまでは保留する。

・全国災害対策会議とは違うものである。

・三重地域、岐阜地域でしたが静岡、愛知も視野に入れていきたい。

⑥支部フェロシップ委員の確認

・各地域会委員



### 中日本倉庫(株)羽島営業所 (艶金興業(株)岐阜工場)

力強い存在感が今もあふれている建物が岐阜県羽島市にあります。丹下健三氏の設計です。隣の愛知県一宮市の丹下氏の代表作、墨会館(艶金興業本社) 竣工から7年後の作です。当初は繊維工場でしたが、現在は中日本倉庫さんの倉庫として使用されています。



仕口のガラススリット

昭和39年竣工の建物ですが、50年経過した今も古さを感じさせない存在感を放っています。特にPC構造の構造的美しさに魅力を感じます。PC柱~梁間の仕口にガラススリットを入れるなどディテールも見事です。全長は、丹下氏の迫り感へのこだわりなのか?戦艦ヤマトと同じ263mだということです。そう聞くと、ただの倉庫ではない感じがします。しかしながら、目立たない場所に立地しており、戦艦ヤマトほどの迫力が、付近からは分かりません。ゆえに知る人ぞ知るという感じが、より興味をそそります!



所在地: 岐阜県羽島市正木町須賀赤松300

アクセス: 名鉄竹鼻線 須賀駅下車 徒歩15分、名神高速道路岐阜羽島ICより車で10分

### ロデオラウンドアップ

アメリカ合衆国のウエスタンの香りがするこの店。岐阜では知る人ぞ知る名店で、本場アメリカ牛のステーキハウスです。和牛霜降りとは違い、赤身が堪能できま



す。赤々と燃える薪の直火焼きで焼いたお肉は、より一層美味しさをそそります。脂っこいのが苦手な人はぜひこの赤身の味をご賞味ください。店主の思いも伝わるといいます。また、サイドメニューのポテト、太いゴボウ揚げ、オニオンリング揚げは他店では味わえない素晴らしい美味しさです。

私もアメリカでステーキを食べたことがありますが、味といい雰囲気といい、まさにアメリカ食文化の良さが味わえる数少ないお店だと思います。



所在地: 岐阜市芥見 3-335 (国道156号線沿い)  
TEL 058-243-1760  
要予約。店主(刈谷さま)に電話の際に、長尾に聞いたと伝えてくださると良いです

## 地域会だより

### <静岡>

- 12/3 2014年度JIA静岡建築フェア  
「第2回建築家講演会 講師:前田圭介氏」(※詳細はP12に掲載)
- 12/4 2014年度JIA静岡建築フェア  
「第2回建築ウォッチング(株)ROKI研究開発棟) + 第2回企業ウォッチング(法人協会員:佐藤工業(株))」  
(※詳細はP13に掲載)
- 12/16 静岡ガス本社見学+ワインの夕べ
- 12/18 第2回静岡県住まい博運営委員会に出席
- 12/18 2014年度JIA静岡建築フェア・空間デザインワークショップ
- 12/18 12月定例役員会(拡大)、忘年会
- 12/22~25 JIA静岡建築フェア・「建築家作品展」
- 1/15 1月静岡地域会定例役員会(拡大)  
防災対策委員会による報告会
- 1/23 建築関係団体新年会の共同開催
- 2/17 静岡県建築文化研究会講演会の共同開催。講師:伊礼智氏
- 2/27 2月定例役員会(拡大・東部持出し)  
東海支部役員会(静岡地域会持出席役員会)

### <愛知>

- 12/3 白鳳小学校建築教室
- 12/10 支部資格制度・愛知職能資格制度委員会
- 12/11 愛知・研修委員会

- 12/15 プリテン委員会
- 12/16 支部会員集会 資格制度について (※詳細はP8~10に掲載)
- 12/17 法人協会委員会
- 12/22 総務委員会
- 12/25 支部大会実行委員会第3回
- 1/9 建築八団体新年互礼会
- 1/13 総務委員会
- 1/16 役員会、CPD講習会、新年会
- 1/19 公共建築設計懇談会
- 1/22 事業委員会
- 1/30 愛知まちなみ建築賞表彰式
- 2/14 建築見学日帰りツアー 2015 一忘れられない建築—in京都

### <岐阜>

- 12/15 平成26年度 第6回 役員会  
18:30~20:00 ハートスクエアG 小研修室1
- 1/23 平成26年度 第7回 役員会  
18:30~ ハートスクエアG 小研修室

### <三重>

- 12/7 みえ歴史的町並み防災・復興研究会 幹事会/  
第1回公開研究会 出席
- 2/7 建築文化講演会 講師:三分一博志氏(アスト津 アストホール)

# 弔りこころ、大切な葬儀

葬儀のこと、お応えします。

古くから受け継いできた葬送という文化、  
弔うことを今も大切に伝えます。  
信頼と真心の葬儀で137年。  
一柳葬具總本店

いちやなぎ斎場は、365日・24時間、  
いつでも病院・施設等から直接入れます。

## いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号  
TEL (052)745-1212

## いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号  
TEL (052)899-0111

◆葬儀のお申し込み◆お問い合わせ◆事前相談は

**TEL.052-251-9296**

365日・24時間 一柳のスタッフが対応いたします!

日本建築家協会東海支部 特約店

創業137年の伝統と実績



株式  
会社

**一柳葬具總本店**

<http://www.ichinagi-sougu.co.jp>  
名古屋市中区栄三丁目14番11号  
TEL (052) 241-0658 FAX (052) 263-1310



## 編集後記

●12月号から始まった黒野有一郎さんの連載の第2回目があります。「建築家は、地域へどのようにアプローチして、地域とどのようにかかわっていけるのか?」という最初の文章から引き込まれていきます。自分も生まれ故郷に戻って7年、父の事務所で働きはじめて5年が経ちました。地域の商工会などの活動にも結構参加していますが、自分は「建築家として」地域に貢献できているのかなと、黒野さんの記事を読みながら改めて考えさせられました。「多様化する建築家の職能」などと言われますが、建築家資格制度とも関係しており、「JIA東海支部会員集会」の記事とあわせて、「建築家とはなんなのか」をいつも以上に考える号だったと思います。

「ARCHITECT」編集会議出席のために月

1回名古屋に来るようになって10カ月が経ちましたが、これまでは事務所と昭和ビルの往復でした。今度、豊橋で途中下車して「水上ビル」を見学しようと思います。(石橋 剛)

●「保存情報」が今号で159回になりました。毎回各地の貴重な情報が掲載されています。

私から、桑名の「保存情報」です。桑名に、大正時代の洋館があります。一つは諸戸家コンドル設計の六華苑。当時桑名には米相場場で財を成した諸戸家、松本家があり、両家はライバルでした。松本家は「諸戸がコンドルなら、こちらはライトだ」と設計を依頼し、現在の駅西に洋館を建てたそうです。松本家から譲り受けて個人所有となっています。その一部で昨年9月にパン屋さん「manon」が開業。行ってきました。幸い建物の所有者に内部を案内していただき、ライトの作品と確信してきました。ライト研究者の谷川正巳氏によると、ライトは桑名に来たことがないそうです。大学から建物を

見に来られて保存したいので文化庁に掛け合うと申し入れがあったそうです。しかし個人で建設当時に配慮した改修・改装をし住まいにされています。保存したい建物とします。桑名に行く機会があれば外からでも観てください。(市川 司)

## ARCHITECT

第317号

発行日 2015.2.1 (毎月1回発行)

定価 380円 (税込み)

発行責任者 石田 壽

編集責任者 牧ヒデアキ

編集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブリテン委員会  
建築ジャーナル内  
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>